

2022年5月25日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- ここからは着席して、お話をさせていただきます。
- いまほど、古濱より説明した不適切事案につきましては、改善措置活動に全力で取り組んでいる中、所長として大変重く受け止めております。
- すでに是正措置を行い、脆弱性が解消されていることから本日公表をしているところですが、私といたしましては、入構証を所持する社員が自分自身をチェックする仕組み、入構証の有効期限切れを事前に知らせる仕組み、そして、有効期限切れをその場でチェックする仕組みのさらなる強化に向け、3月30日の会見でお知らせしたとおり、今後、システム更新や機械化といったハード面の充実も注力してまいります。
- 本日はご紹介する「柏崎刈羽原子力発電所の志」は、「いい発電所」にしていくためにはどうすればよいか？という所員の声を、発電所幹部が受け止めて策定したものです。協力企業も含めた発電所で働く全ての人々の支柱となる決意、そして、お互いの約束事項として取りまとめたものとなります。

- 今回のような事案の再発を防止するためにも、この志の理解・共感活動を早急に進め、この約束を守れない方には、それに応じた対応をしていく必要もあると考えているところです。
- それでは、お手元の資料の1スライド目をご覧ください。
- 表の最上段にありますとおり、発電所で働く全ての人々の「志」として、「いい発電所にしよう」を掲げることといたしました。その上で、目指す姿を「地域を愛し、地域に愛される発電所」「みんなが誇りを持って、笑顔で生き活きと働く発電所」「お客さまに選んでいただける発電所」とし、それに紐づく、13項目の主たる決意・約束で構成しています。
- 本日は、その中からいくつかご紹介させていただきます。
- まずは、「地域を愛し、地域に愛される発電所」です。このパートは、「私たちの基本姿勢」と「地域の皆さまとのつながり」に区分しております。安全とセキュリティを大前提として、基本姿勢がしっかりとしていなければ、愛されるスタートラインにも立つことができません。例えば、一つ目の丸に、「『柏崎刈羽の行動規範』を守ります」とあります。
- 一連の不適切事案、特にID不正使用については、他人のIDを無断で使い身分を偽るという、倫理に反する行動がございました。このような倫理違反などを起こさないよう、東京電力グループ企業行動憲章を踏まえながら、この柏崎刈羽原子力発電所で遵守すべき基本的なふるまいを「行動規範」として示しております。

- 2スライド目に、今ほどご説明しました行動規範を掲載しております。
- 先ほどの入構証の期限切れも、この行動規範の4つ目にある、「核セキュリティに関するルールを常に意識し、違反してはなりません」に反したものだっただとと考えております。所属長である原子力・立地本部長から本人に厳重注意を行うとともに、当該社員には、再教育のうえ、私が直接面談を行い、私が納得するまで発電所への入構はとどめることといたしました。また、この柏崎刈羽の行動規範を、発電所だけでなく、柏崎市に来た本社社員にもしっかりと展開してまいります。
- 1スライド目にお戻りください。この「私たちの基本姿勢」を踏まえ、たうえで、「地域のみなさまとのつながり」と書かれた部分には、地域の皆さまと一緒に発電所、そして地域をつくっていききたいという想いを記載しております。
- 一つ目の丸に「誠実な情報発信に努め、いただいた声を活かしていきます」とあります。これは、トラブルが発生した際、仮に「技術的に問題がなく、原子力安全に影響ない」と私たちが考えても、地域や社会のみなさまに迅速かつ誠実に伝えることができなければ、ご不安やご不信につながってしまいます。
- 発電所で働く人々の様子も含め、発電所の状況をしっかりとお伝えし、しっかりとご意見を伺う、そして、そのご意見を発電所運営に活かしていく。このサイクルを発電所で働くすべての人々とともにしっかりと回していきたいと考えております。

- また、二つ目の丸の後半に「地域災害時の貢献」とあります。わたしたちは、日頃からの訓練を通じて緊急時の対応力を高めており、緊急時対応に必要な物資も発電所の中に用意しております。
- そのため、仮に地域で大きな災害が発生した際、発電所の被害状況に応じ、所内の人財や資材を用いて復旧支援や仮設照明の設置等、地域のために活用していくことはできないかといった検討を始めたところです。今後、地域の方々のニーズも踏まえながら検討を進め、とりまとまった内容については、別途お伝えしてまいります。
- 目指す姿の2つ目は「みんなが誇りをもって笑顔で生き活きと働く発電所」です。
- 三つ目の丸に「すべての仲間と本気のコミュニケーションでつながります」とあります。「いい発電所とは、どういったものか？」という所員へのアンケートの中においても、「コミュニケーション」に関する回答が最上位にありました。また、所員との対話会においても、コミュニケーションが大事といった声が多くあり、今回の一連の不適切事案を踏まえてもコミュニケーションの大切さを痛感しているところです。ただし、コミュニケーションと一言でいっても、色々な形がありますので、上辺だけでなく、本音をぶつけあい、あきらめず粘り強く接する「本気の」コミュニケーションを通じて、前向きな課題解決につなげてほしいと感じています。
- 目指す姿の3つ目は「お客さまに選んでいただける発電所」です。
- 三つ目の丸に、「廃棄物排出を最少化し、環境負荷を低減します」とあります。これは、発電所で働く全ての人々が発電所から出る廃棄物を最少化するとともに、フロンの排出や危険物の漏洩などを

防止することで、少しでも地域の環境負荷を軽減することが重要です。

- さらに一歩進め、廃棄物低減につながる工事方法や、環境負荷の低減につながる製品を採用するなど、地域のみなさまとも協働いただく中、対応していきたいと考えております。
- この「志」については、今月19日に所員への説明会を行いました。所員からは『自分たちが考えて意見を出した内容が組み込まれていることを実感できた』といった声を聴くことができました。
- 一方で、作っただけでは意味がありません。協力企業のみなさんも含め、これが発電所で働く人々同志の決意・約束になるよう、継続的にさまざまな理解・共感活動を展開してまいります。
- 3スライド目には、3月30日にお伝えした内容を掲載しておりますのでご参照ください。
- 続きまして、柏崎市内にあるUKビルの事務所開所についてです。4スライド目をご覧ください。
- 5月1日から本社原子力部門の一部機能が移転したことに伴い、5月9日に柏崎市内にあるUKビルにて、原子力・立地本部長の福田、新潟本部の橘田、そして私も出席の上、事務所の開所式を行いました。「品質・安全」や「設備診断」、「工程管理」、「人材育成部門」などを担当する43名がUKビルでの勤務をスタートしております。

- 私からは、「本社と発電所の距離が 300km から 10km に縮まっても、UKビルに籠っていたら、発電所の状況を肌で感じ取ることが難しい。残り 10km をいかに縮めるかが重要であり、現場・現物・現実にもとづき所員としっかりと連携を取ってほしい」と伝えました。

- 将来的な移転の計画については、執務場所や居住場所の確保等の諸課題について精査した上で、本年 9 月を目途に改めてご説明させていただきます。

- 私からは以上です。